

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470101967
法人名	医療法人 展寿会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」
訪問調査日	平成19年10月 5日
評価確定日	平成20年 5月23日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4470101967
法人名	医療法人 展寿会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」
所在地	大分市大字寒田235番地の16 (電話)097-568-3002

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年10月 5日	評価確定日	平成20年 5月23日

## 【情報提供票より】(平成19年 9月19日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年 4月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	8.25人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋一部鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~46,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

### (4)利用者の概要(9月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	梶本医院 アルメイダ病院 斉藤歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 法人代表者を中心に研修や地域活動に取り組み、利用者の心を大切にしようとしている。
2. 職員はやさしく穏やかな語りかけで、利用者のことばを否定しないで受け入れ、その時の状態や気持ちに寄り添って尊重した接し方である。
3. 昔懐かしい職員の家を開放して、泊りでふるさと訪問を行い、ゆったりとした時間を過している。
4. 建物は近代的であるが和風の障子や畳のイスなど懐かしい雰囲気を作り、周辺環境にも自然を多く取り入れ草花や木々から季節ややすらぎを肌で感じられるよう整備している。また畑で野菜を作り収穫をして料理をしたり、毎年梅干づくりをして生活を楽しんでいる。
5. 利用者の好きなことや趣味を尊重して、日々の暮らしで継続できるよう支援をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価結果について、改善点は改善計画シートにより、改善に向け検討し積極的に取り組んでいる。改善達成ができなかった項目については継続して行う姿勢である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議で自己評価を行い、実際に評価をすることで評価の意義やポイント・グループホームに求められていることを習得している。自己評価には対しては厳しく評価をして、向上に向け前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催している。市職員、自治会長、老人会、家族、法人役員、管理者、グループホーム職員が参加している。内容はグループホームの概要、方針や理念、サービス評価、活動内容、近隣交流などについて話し合いをしている。また参加者から積極的に意見が出され職員は意見を反映させようとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に参加する家族代表者が、他の出席者と同じ席で意見や要望を出し運営に繋がる場としている。また、面会時に家族の思いや意見を聞き、職員は対応をしている。家族同士での意見交換による要望などは今後期待する課題である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームから地域に向けて積極的に活動を行っている。地区公民館活動に法人代表者が参加して地域と馴染むよう努力が見られ、利用者も地域の中で受け入れられている。地域の防災訓練へも参加して地域で支え合いができるよう活動をしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの開設時に作った理念で見直しを行っていないため地域密着型サービスの内容を理念に反映していない。	○	既存の理念を基に、地域密着型サービスとして状況の変化に伴い全職員で話し合い、地域の中でその人らしく暮していくための内容を反映した理念の見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で朝の申し送りの時や月2回の定例会で、理念を認識し合い共有してケアに活かそうとしている。運営推進会議で理念を伝えて啓発にも取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	理事長が率先して地域活動に参加しており、利用者も地域の公民館で行われる教室に参加している。また、毎朝職員と利用者でグループホーム周辺や道路の清掃活動を行い、声掛けやあいさつを通して地域との繋がりを働きかけている。散歩に出かけて近くの公園で近所の方と交流を持ち地域に馴染んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果について改善点をリストアップし計画的に取り組んでいる。今回の自己評価についても全職員で取り組み厳しい目で捉えている。評価の意義について管理者は職員に説明して、質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より2ヶ月に1回開催している。地域の代表者や家族から積極的な意見が出され対応している。グループホームとして日頃の状況をパワーポイントで再確認して、家族も日常生活が分かり安心している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人としては市担当者と相談や連絡を取り合いサービスの向上に取り組んでいる。しかし、グループホームとしては運営推進会議や書類提出時のみの関係である。	○	グループホームとしてのアピールや実態の報告、課題についての相談など市に対して積極的にアプローチしていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日頃の様子など話し、面会に来ることのできない家族には電話連絡をして生活の様子を伝えている。毎月の利用料の請求書とともに広報誌や日常生活の写真等を同封し送付している。金銭管理については面会時に確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表者が参加して意見や思いを伝えている。意見箱の設置で意見を出しやすい配慮や面会時に家族の要望を聴いているが、家族同士で意見を出し合う仕組みは作っていない。	○	家族が意見や不満・要望など出しやすい場を作り、グループホームの運営に活かすことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は同じ敷地内のため、行事などで会うことができ馴染みの関係が保っている。職員の異動に際しては家族や利用者に対しても動揺のないよう説明をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人代表者を中心に、法人内研修や会議を開き計画的に育成をしている。認知症についての研修には職員が積極的に外部研修などに参加して、学んだことは他職員に伝えてケアの質の向上に努めている。法人としてキャリアに応じて長期にわたり専門研修の派遣も予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワークに加入しているが、現場職員は認識しておらず、情報が共有できていない状況である。同業者と、管理者を中心に交流をして知り得た情報を職員で共有し介護に活かしている。	○	グループホームの全国ネットワークに加入しているので、会議などに参加して同業者と交流を行い、実際にグループホームの見学を通してより高い質の向上に努めることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者はほとんどが併設の病院や老人保健施設やデイサービス利用者で、併設施設での行事にグループホーム職員も出かけて日頃より馴染みの関係づくりをしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は気軽に声を掛け合いお互いにコミュニケーションを楽しんでいる。職員は利用者を人生の先輩として尊重し、昔の知識を教えてもらう謙虚さと、共に支え合う姿がある。利用者から職員への優しい言葉かけが自然に表現されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりから思いや日々の過ごし方そして意向を聞きとり、ケアの中で実践しているが、記録として書き込みをしていないため職員間での確実な共有ができにくい。	○	入居時に聞き取ったこと以外にも、コミュニケーションや日頃の状況から知り得た情報は、いつ誰が見ても分かるように記録して介護に役立てることが望まれる。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや希望を聞き、職員全員で話し合い、楽しみや趣味を含めたその人らしい介護計画を具体的に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直しており、モニタリングにより状態変化を確認して対応している。緊急時には家族に電話をして話し合い、計画作成をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ふるさと訪問を行い宿泊の付き添いや、地区公民館活動の付き添いなど柔軟な支援をしている。また隣接の同法人と連携が深く日常的な医療支援により心身の安定を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医師がかかりつけ医として法人敷地内に居住している。本人や家族がそれまでのかかりつけ医の継続を希望すれば要望を聞き入れ、かかりつけ医と連携をした医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応について入居時に本人や家族と話し合い意思確認をしている。状態の変化により随時家族や本人そして担当医と職員を交え話し合い方針を決め、職員は全員で方針に向かい取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	小会議の中でプライバシーや個人情報保護について学習や話し合いをし、実践に活かそうとしている。職員はトイレ誘導の言葉かけや書類の取り扱いなどに配慮している。しかし、利用者が自室のトイレを使用する際、廊下側の戸を開けると見えるつくりである。	○	自室のトイレ使用時に外から見えることのないよう細心の配慮をしているが、さらに今後はカバーを掛けるなどして見えない工夫をしたいと考えているので期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の状態や要望に応じた生活リズムでその人らしく暮している。詩吟をしたい方には地区の公民館へ出かけて楽しむなど、一人ひとりのやりたいことを優先した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、できる事をできる時にしている。職員と利用者はゆったりと話しながら一緒にテーブルでご飯を食べ、食後も世間話などで団欒の時間を設け家庭的に過ごす時を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂好きな人はいつでも入浴ができ、風呂が嫌いな人については、最低でも週2回の入浴支援ができるよう支援している。またシャワー浴や部分浴等状況に応じた柔軟な支援も行っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞の切り抜きをスクラップにしている人や、詩吟教室に通う人、得意な料理を職員に教える人など職員が生活歴を把握して、持っている能力を活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、グループホーム周辺の清掃や散歩で日常的に外に出る生活である。ドライブや買物、ふるさと訪問、神社へのお参りなど季節や節目を大切に支援を計画的に行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しようとした時は職員が見守り、寄り添っている。一人ひとりの心の動きを見つめ、外出傾向を踏まえた対応に心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。夜間や利用者が動けなくなった時の対応も考えシーツを使った訓練も実施している。地域の防災訓練にも積極的に参加して、消火訓練を通して支え合う体制づくりができています。食品備蓄は隣接の法人本部に確保してすぐに使えるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを決めるための会議があり、栄養や好み・季節に応じた食品・水分摂取などについて話し合いをしている。朝食に食べたい物を聞き要望に応じた対応をしている。1日のカロリーは1520kcal前後で3食に汁物をつけ水分の確保をしている。買物と一緒にいき、目で見て食べたい物を買ひ、おやつとして食べ、食欲に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に集まりたくなるような落ち着いた雰囲気、洋風な中にも障子や畳を使い家庭的である。随所に季節の草花がさり気なく飾られ、中庭の草花や木に触れながら自然を満喫できるよう心配りが見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味や個性を大切に部屋づくりをしておひ、写真やテレビや花など、家族の思いを大切にしている。本人が大事と思っている物を尊重した居心地の良い空間としている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県大分市
記入者名 (管理者)	三浦 トミ子
記入日	平成 19年 9月 18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		○ 現在地域との交流は出来ているとおもうが、理念の中に組み込んで行く事を検討したい。
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回の会議や朝の申し送り等で唱和し、全職員が認識しており実践に向け取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	推進会議で地域の代表に参加してもらい、事業所の取り組みを理解してもらっている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩や外回りの掃除・洗濯物干しの時などに気軽に挨拶し話をしている。	○ 更なるはもっと気軽に立ち寄ってもらえるように努めたい。
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設されている老健の盆踊り大会に参加したり、地域の公民館活動として詩吟に参加し、又は近く的美容院に通う等交流に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩中の高齢者に声かけをし(お元気ですか等)顔見知りするような取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議、月2回の会議にて改善点、評価に取り組んでいる。	○	・法人として接遇委員会を持ち、自己評価などを行っている。 ・グループホーム独自とし、接遇面を含めて自己評価をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文章だけでなく、パワーポイントにてグループホームの取り組みなどを報告して、意見を出してもらい、今後のサービスに取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では運営推進会議のみ。	○	今後、市町村の担当者に相談できる関係作りに努め、サービスの向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	対象者はいないが、学ぶ機会、今後必要に応じて支援して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習などは行っていないが、常に皮膚の観察などを注意している。	○	勉強会やミーティング等で学ぶ機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	利用者や家族に十分説明し納得していただいている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	言葉や態度から思いを察する努力をし、利用者本位の運営に努めている。	○ 意見を出してもらえる機会をつくる。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時に報告し、面会の少ない家庭については電話連絡している。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時などで常に問いかけて、ミーティングなどで話し合っている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回幹部を交えての会議やスタッフ会議等設け職員の意見や提案を聞いている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	常に勤務調整を行っている。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者の趣味や楽しみ、嫌な事、苦手な事の情報に交代職員より引継ぎ、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	勤務年数に応じて国家試験の受験のすすめや、スキルアップのための法人内外の研修を受けるよう進めている。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者を中心として他の同業者(所)への見学交流は行っているものの相互訪問の活動までは至っておらず今後のネットワークづくりに努めていく。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	法人あげての交流会や親睦会を開催している。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	年度初めに個々の目標や取り組みを書面にて示して、それに応じて声かけ等を行って向上心を持って働ける様に取り組んでいる。	
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	認知症である為、本人の意向が直接把握できない場合は、家族から本人の考え方等聞き取り、反映させる又は環境が変わることについて、仮想論で意向をつかむ。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族とは何度か連絡を取り、その都度、不安に思われていること等を聞き取るようにしている。また、事前の見学であったり、職員との面談等で具体的に問題解決していく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設での現状を理解してもらい、やむを得ず家族の意向に沿うのが困難な場合は、他のサービスの利用について紹介している。その際には、それまでの本人の生活の様子を極力実像がわかるように把握し、入居後、環境変化にスムーズに馴染む様情報提供していく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談に来所された際、施設の見学、特に入居予定の部屋では本人にとって住みやすい環境を提供できるよう相談を受けている。また、環境の変化を少なくする為、緊急度の高い入居以外は、併設施設への入所利用から徐々に移行する様、努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の特性を生かした役割分担を行っている。不安等のある方には時間をかけて傾聴している。外出の機会を作ってマンツーマンの対応でお互い話を出来る環境づくりを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の訴えや悩み等を必要に応じて家族に報告し、協力してもらったり共に解決できる環境づくり。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族を伴っているバスハイクにより本人と家族の交流の機会をつくりよりよい絆を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々との関係が途切れないように公民館でのイベント事や散歩に出かけ交流を深めるように努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の声を聞き、食事時での席の配置を工夫したり、レベルに応じた2～3人によるレクや作業より1人にならない様な取り組み。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調不良で退去された方に対しては入院施設に面会等に行き、その方や家族との関係を大切に維持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方に対する希望や意向に対しては本人本位でその人らしい生活が出来る様に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の面会時に生活歴などを小さな事柄でも情報を得る。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムを把握し、体調の変化などに注意をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に対して思いや要望を聞き、全職員でカンファレンスやモニタリングに基づき介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に情報を確認し、状態が変化した場合は、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入し、全職員が情報を共有し、介護計画の見直しの評価に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	公民館活動の付き添いや家族の状況に応じて、美容院など同行支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の好きな文化サークル(詩吟)の参加や周辺美容院の利用、地域諸施設から協力を得ることができるよう、外への働きかけを心掛けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設されているデイケアに行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらえるように努めて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は、当事業所の医療体制に信頼を得ており、医師の指示で総合病院への医療連携も出来ており、家族の意向に沿った医療。連携体制がある。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設医療施設の医師と常に相談し、指示を仰ぎながら的確な対応が出来るよう努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師のもとで投薬、内服。日常の健康管理の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院が併設されており、頻回に面会に行き、情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合い、状態の変化があった場合、再度、家族に確認し、結果を職員全員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化となった場合、併設の病院に入院となる。	○	入居者も加齢とともに重度化に対する話題は上がるが、検討段階までは至っていないので、医療機関連携をとって今後具体的な検討を行う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時、必要な情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉がけで対応し、家族などに情報を漏らさないよう徹底している。	○ 目の前でケース記録を書かない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	10時のお茶の時間に飲み物の希望を聞き自分で決められるよう声かけしている等、本人の意志を大事にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の表情や言葉を見逃さず、お話を伺いながら職員全員でその人らしく生活できるよう考えて大切にしている。寄り添い、一緒に過ごすことを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容院に出かけ、パーマもかけてもらっている。(美容院側が認知症を理解してくれている)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等できる人には、おわんを洗って拭いてもらったり、テーブル、お盆、おはし、コップを並べてもらっている。できる人が限られているが、会話を楽しんで食事をする。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むお酒を体調に合わせて楽しんでいる。大好きなコーヒーを飲みすぎないようお茶の時間、おやつ等の時間等に出したりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを調べ、声かけ誘導を行い、失敗やおむつを減らすように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	固定の入浴日は決めてはいるが、本人の意向を尊重して入浴を楽しめている。	○	その日の気分による夜の入浴希望ある方には、対応を考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調、本人の希望などに応じて食後の休息をとってもらったり、本人の状態をみて、本人の意向にそって、早めの入眠をしてもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔通っていた詩吟教室に又通ったり洗濯物干しの手伝い、洗濯物たたみといった主婦の役割を楽しみながら行えるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い帳などを作り、必要なもの本人と相談しながら買っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブに行ったり、買い物に職員と一緒にいたり、散歩、暑い日などは、別棟に行ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回、家族を交えたバスハイク。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、職員と同行していく。手紙においては、希望に応じて手紙を出せるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室でゆっくり会話できるようにイスを出し、お茶を提供している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく認識しており、すべてにおいて拘束をしない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で見守りの方法を徹底しており、安全に暮らしていけるよう支えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時、かならずノック、入室し、利用者の所在や様子を把握する。夜間は、すぐに対応できるようにホールにいて安全につとめている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・はつとの記録に基づき、職員間が共有し、移動時の転倒、食事中のむせなど状況に応じて事故防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて栄養面や水分補給に努めている。	○	現時点では体調不良時のみ食事量、水分量をチェックしているので常時全入居者のチェックシートを作成する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めがある(ペーパータオルを使用し、予防を徹底している)。職員共にインフルエンザの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん消毒。冷蔵庫の中の食材の残り物等の点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	中庭と調和した玄関横の坪庭の手入れといけばな。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、食堂は照明、色彩、清潔、適切なスペースを配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の間でくつろぎが出来、個々の座布団を用い、肘付椅子でゆったり過ごすことができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビなどを置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に応じて換気に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の恐れのある人に対して足元にマットを置いて対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物たたみなど各自の名前を確認で迷っている時に声かけし、自立をしていただく。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に出て、草花や木を見たり触れたりできる。		